

# 鎌倉殿を支えた 13人の重臣ガイドブック

鎌倉殿を支えた13人の重臣ガイドブック

令和3年(2021年)9月 第1版

令和3年(2021年)11月 第2版

発行：鎌倉市(神奈川県鎌倉市御成町18-10)

監修：鎌倉歴史文化交流館(神奈川県鎌倉市扇ガ谷1-5-1)



<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/taiga/guidebook.html>

このガイドブックは、鎌倉市のホームページから

無料でダウンロードできます。

## 2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ストーリー

### 目次

はじめに	・・・1
登場人物	・・・2
北条義時	・・・4
北条時政・安達盛長	・・・5
梶原景時・比企能員	・・・6
三浦義澄・和田義盛	・・・7
足立遠元・八田知家	・・・8
中原親能・大江広元	・・・9
三善康信・二階堂行政	・・・10
北条義時 略年表	・・・11
鎌倉殿・13人の重臣ゆかりの地	・・・13
鎌倉殿・13人の重臣 関連施設	・・・20

.....

2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ストーリー

平家隆盛の世、北条義時は伊豆の弱小豪族の次男坊に過ぎなかった。だが流罪人・源頼朝と姉・政子の結婚をきっかけに、運命の齒車は回り始める。

1180年、頼朝は関東武士団を結集し平家に反旗を翻した。北条一門はこの無謀な大博打に乗った。頼朝第一の側近となった義時は決死の政治工作を行い、遂には平家一門を打ち破る。

幕府を開き将軍となった頼朝。だがその絶頂のとき、彼は謎の死を遂げた。偉大な父を超えようともがき苦しむ二代将軍・頼家。“飾り”に徹して命をつなごうとする三代将軍・実朝。将軍の首は義時と御家人たちの間のパワーストーンの中で挿げ替えられていく。

義時は、二人の将軍の叔父として懸命に幕府の舵を取る。源氏の正統が途絶えたとき、北条氏は幕府の頂点にいた。都では後鳥羽上皇が義時討伐の兵を挙げる。武家政権の命運を賭け、義時は最後の決戦に挑んだ――。

「鎌倉殿」とは鎌倉幕府将軍のこと。頼朝の天下取りは十三人の家臣団が支えていた。頼朝の死後、彼らは激しい内部抗争を繰り広げるが、その中で最後まで生き残り、遂に権力を手中に収めたのが、十三人中もっとも若かった北条義時である。

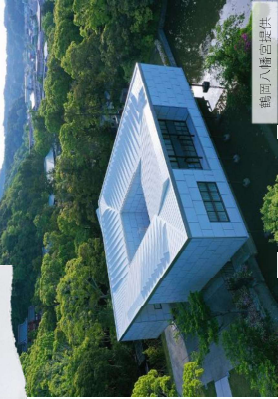
【NHK ホームページより】

放送予定：2022年1月～12月

## 鎌倉殿・13人の重臣 関連施設

### 鎌倉殿の13人 大河ドラマ館

雪ノ下エリア



鶴岡八幡宮境内

《2022年3月1日OPEN》

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送に合わせて、大河ドラマの世帯観を体感していたただける大河ドラマ館を鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム内にオープンします。

📍 鎌倉市雪ノ下2-1-53 [鶴岡八幡宮境内]

### 鎌倉国宝館

雪ノ下エリア



昭和3年に開館した歴史・美術の博物館で、鎌倉市域、近隣の社寺に伝来する彫刻・絵画など様々な文化財を展示しています。2022年は鎌倉殿と13人の重臣に関連する展覧会の開催を予定しています。

📍 鎌倉市雪ノ下2-1-1 [鶴岡八幡宮境内]

### 鎌倉歴史文化交流館

扇ガ谷エリア



鎌倉の通史や出土品を紹介する博物館。2022年は北条義時とその時代に関連する展覧会を年4回開催する予定です。無量寺谷と呼ばれるこの谷には13人の重臣の1人、安達氏の菩提寺などがあつたと考えられています。

📍 鎌倉市扇ガ谷1-5-1

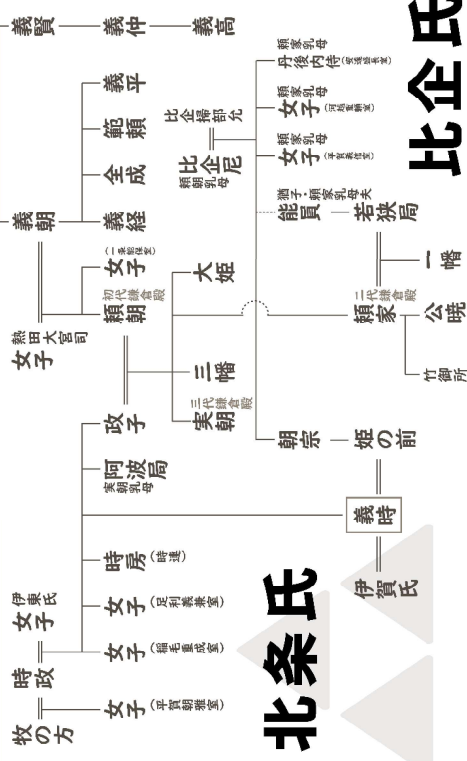
## はじめに

治承4年(1180)、源頼朝は平家打倒の兵を挙げます。そのはじめは、僅かな兵からなる「反乱軍」でしたが、勢力は瞬く間に膨れ上がり、新たな武士の政権「鎌倉幕府」を創り上げていきました。

頼朝のもとには、東国武士をはじめとする源氏の家人、平家の治世に反意を持つ人々、頼朝の妻や母・乳母ゆかりの人々、京都から新天地を求めてやってきた貴族など、様々な人が集いました。彼らは自らの主の意を達めて、頼朝を「鎌倉殿」と呼びます。

頼朝の死後、息子頼家が鎌倉殿を継承しますが、その地位は決して安定したものではありませんでした。この鎌倉殿を支える存在として選ばれたのが、北条義時をはじめとする13人の重臣たちでした。

## 系図



01

北条 義時

ほうじょう よしとき  
(1163-1224)



時政の子



義時の父

02

北条 時政

ほうじょう ときまさ  
(1138-1215)

03



安達 盛長

あだち もりなが  
(1135-1200)

04



梶原 景時

かじわら かげとき  
(?-1200)

05



比企 能員

ひき よしかず  
(?-1203)

06

三浦 義澄

みうら よしずみ  
(1127-1200)



義澄の叔父

07

和田 義盛

わだ よしもり  
(1147-1213)



義澄の甥

武士

北鎌倉エリア

在の舍利殿は、北条氏康が太平寺客殿(仏殿とも)を移築したものです。※舍利殿は常時公開されていません。

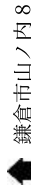


ゆかりの人物：北条義時・梶原景時



北条義時以来、北条得宗家領となった山内荘に、5代執権北条時頼が建立した禪宗寺院です。山内荘は土肥氏の所領でしたが、和田合戦に与したことで没収され、義時に与えられました。以後荘内には、北条氏によって常楽寺・建長寺・円覚寺など多くの寺院が造られました。

建長寺の三門では毎年7月15日に梶原景時の菩提供養のための施餓鬼会が行われています。



鎌倉市山ノ内8

北鎌倉エリア

北鎌倉エリア



ゆかりの人物：北条義時・源実朝

北条義時以来、北条得宗家領となった山内荘に、8代執権北条時宗が建立した禅宗寺院です。

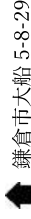
国宝の舍利殿には、源実朝が宋から請来し、もと大慈寺に安置されていたという仏舍利が祀られています。鎌倉時代後期に建てられた舍利殿は火災で焼失。現

北鎌倉エリア

北条義時の息子・泰時が妻の母の供養のために建立した寺院で、泰時の年忌供養も行われています。また「粟船山常楽寺略記」は北条政子が娘大姫と許嫁の源(木曾)義高の菩提を弔うため寺を創建したとし、裏山には義高の首塚といわれる塚があります。



ゆかりの人物：北条泰時・源義高・大姫



鎌倉市大船5-8-29

### 極楽寺

由比が浜エリア

ゆかりの人物：北条義時



北条義時と姫の前の息子・重時の山荘に造られた寺院で、重時の息子・長時らによって律院となりました。

周辺はもと三浦氏の所領であったとする説もあり、後に重時がこの地を獲得し、山荘を建てました。

鎌倉市極楽寺 3-6-7

### 満福寺

腰越エリア

ゆかりの人物：源義経



寺伝では天平 16 年 (744 年) 行基の創建で、承安年中 (1171~75 年) に高範が中興したといわれています。

当地は源頼朝の不興を被った源義経が逗留した地と伝えられています。義経逗留伝説は江戸時代の資料に見え、弁慶筆といわれる腰越状の写真などが残ります。

鎌倉市腰越 2-4-8

### 御霊神社 (梶原)

深沢エリア

ゆかりの人物：梶原景時



鎌倉党の祖・鎌倉権五郎景正公を祀ります。鎌倉党は鎌倉郡などを拠点とした武士団で、梶原・大庭・鎌倉・長江・長尾氏等がいました。鎌倉党の本拠地には景正公を祀る御霊神社があり、それぞれに鎌倉党の伝承が残ります。

梶原地域は、鎌倉党の一流・梶原氏出自の地とされ、梶原景時やその一族に関する話が伝わります。

鎌倉市梶原 1-12-27

## 武士

08 足立 遠元  
あだち とおもと  
(生没年不詳)



09 八田 知家  
はった ともいえ  
(生没年不詳)



## 文士

10 中原 親能  
なかはらのちかよし  
(1143-1208)



兄弟 (養子)

11 大江 広元  
おおえのひろもと  
(1148-1225)



12 三善 康信  
みよし やすのぶ  
(1140-1221)



13 二階堂 行政  
にかいどう ゆきまさ  
(生没年不詳)



ほうじょう よしとき  
北条 義時

伊豆国田方郡北条(今の静岡県伊豆の国市の在庁官人(国の役所の行政実務を担当する役人)を務める北条氏に生まれます。父は時政、姉には政子がいて、伊豆に流された源頼朝と政子が結ばれたことにより、頼朝の拳兵に協力し、鎌倉に入りました。頼朝が亡くなると、新しい鎌倉殿の源頼朝を支える13人の重臣に選ばれます。北条氏はその後、梶原氏や比企氏などの有力御家人と敵対しますが、いずれも勝利を収めました。

2代目鎌倉殿・頼家が重病を患うと、幼い源実朝を新しい鎌倉殿とし、祖父にあたる時政が政治の実権を握りますが、時政は、後妻・牧の方と鎌倉殿・実朝の廃位を企てたことなどにより、御家人たちの信頼を失って失脚しました。

こうして時政に代わって姉・政子とともに幕府政治の主導権を握った義時は、その後、有力御家人の和田義盛との合戦にも勝利し、幕府内における北条氏の地位を確実なものにします。

しかし、3代目鎌倉殿・実朝が鶴岡八幡宮で甥の公暁に暗殺されたことをきっかけとして、幕府と朝廷の関係は悪化していきます。

承久3年(1221)、後鳥羽上皇は北条義時討宣旨を全国に発し、兵を挙げました。この未曾有の事態に対し、義時はすぐさま京都に向けて大軍を送り込みました。このとき、尼將軍・政子の演説により御家人たちが結束を固めたのは、有名な話です。幕府の武力が朝廷を圧倒し、義時は幕府における最高権力者の地位を得ました。

その3年後、62歳で亡くなると、その墓は頼朝の法華堂(墳墓堂)の隣に建てられました。



鎌倉市大町 1-15-1

材木座エリア  
来迎寺 (材木座)

ゆかりの人物：三浦一族



源頼朝が三浦義澄の父、三浦義明の冥福を祈って建立した能蔵寺があった場所とされています。本尊阿彌陀三尊像は三浦義明の守護仏と伝わります。

敷地内には三浦一族や家臣の墓と伝わる五輪塔があります。

鎌倉市材木座 2-9-19

和田塚

ゆかりの人物：和田義盛



北条義時と和田義盛の武力衝突(和田合戦)の結果、和田一族敗死の屍を埋葬した塚として、伝承されています。

和田塚に近い由比ガ浜一帯は、和田合戦の主戦場となった場所です。明治時代の道路工事で墳輪や多くの人骨が掘り出されました。

鎌倉市由比ガ浜 2丁目

御霊神社 (坂ノ下) 由比ガ浜エリア

ゆかりの人物：梶原景時

鎌倉党の祖・鎌倉権五郎景正公を祀ります。鎌倉党は鎌倉郡などを拠点とした武士団で、梶原・大庭・鎌倉・長江・長尾氏等がいました。

当社は源頼朝が鎌倉に入る前から鎮座していたと伝えられています。景正公命日の9月18日には、鶴岡八幡宮の放生会がかつて行われていた舞楽面の行列に倣った面掛行列が行われています。



鎌倉市坂ノ下 4-9